

鳥取西高近畿同窓会報

特別号
2023年4月1日発行

発行：鳥取西高近畿同窓会
発行責任者：窪田邦倫（西高 45年）
編集責任者：山内紀嗣（西高 43年）



高野名誉会長の

「逝去を悼む

長年にわたり近畿同窓会をご指導いただいた高野泰明名誉会長（西高第一回、昭和二五年卒）が昨令和四年三月逝去されました。享年九二歳でした。氏が近畿同窓会の会長に就任されたのは、前任の会長であった澤巖氏（当時日本交通㈱社長、一中第五二回、昭和一五年卒）の急逝（平成七年七月享年七五歳）を受けてのことでした（氏は当時三洋電機㈱社長という要職にありました）。確か十月であったと思いますが、同じ会社に在籍していた私は突然秘書からすぐに社長室に来るように呼出しを受けました。何事かと駆け付けると見知らぬ方々が十数名来訪されており、近畿同窓会の役員・幹事の方々であるとの紹介を受け、「今日皆さんから澤先輩の後任会長就任をお願いされた。引き受けるに当たり君に事務局長をお願いしたい」と言われました。これが近畿同窓会と関わるきっかけでしたが、突然大海に放り出されたような感じで心中穏やかでなかったことを記憶しています。

なお、ほぼ時機を同じくして鳥取県大阪事務所（現関西本部）より大阪鳥取県人会会長就任の要請があり受諾されましたが、私も事務局を命じられ一時期混乱したものです。澤先輩が近畿同窓会同様、県人会云

鳥取西高近畿同窓会

前会長 米澤 道隆

（西高三九年）

長職にあった関係ですが、氏はこれ以外にも多くの名誉職を受けておられ、公私ともに更に多忙になられたことを思い出します。さて高野会長就任が正式に承認されたのは翌平成八年四月に開催した総会の場でしたが、当初の想定を大幅に上回る約一二〇名の参加者で会場のホテルが大混雑。高野新会長への大いなる期待の表れであったと新米事務局担当として胸をなでおろしたものです。氏は大変温厚誠実かつ気配りのある方で一中・高女の諸先輩には特に気を遣われていました。



高野名誉会長と米澤前会長

（第52会総会にて）

更にスポーツ用品メーカー大手のアシックス創業者で社長をされていた大先輩である鬼塚喜八郎氏（昭和十一年、一中第四八回卒）には同じ経営者としての配慮もあり、「名誉会長」に就任していただくよう指示を受け事務局として先方の秘書課と話をしながら快諾をいただいたのは平成一五年頃かと記憶しています。

また、鬼塚大先輩が逝去（平成一九年九月享年八九歳）されたあと鳥取県を挙げて顕彰碑を鬼塚大先輩の故郷（現在の鳥取市松上）に近い布施の運動公園内に建立することに個人・団体の賛同者を募りましたが、近畿同窓会を代表して率先して発起人を務められ尽力されたことはまだ記憶に新しい所です。

当時の事務局は私一人の状態でしたが、大変気を遣われ自由にさせていたことも有り難い事でした。氏のご性格の最たるものが思わず人を引き込む説得力ある話し方であり、同窓会総会等における冒頭のご挨拶はいつも簡潔明瞭にしてエスプリが効いており、話を聞くのを楽しみにして来られる方も多々ありました。



鳥取市布施運動公園の鬼塚喜八郎氏の銅像



在りし日の高野会長

振り返ってみますと平成七年の会長就任から平成二五年（この年西高は創立一四〇年を迎えた）の名誉会長就任を経て令和四年三月お亡くなりになるまで足掛け二十七年の長きにわたり近畿同窓会を指導され発展に貢献されたことは驚嘆に値すべきことかと思えます。これも偏に氏の人徳の賜物でありましょう。



懇親会にて

お悔やみ

慎んでご冥福をお祈りいたします。

（ご連絡を頂いた方のみ）

- 歳岡（蔵密）昌子 (高女一六年)
高野泰明 (西高二五年)
伏野義夫 (西高二六年)
木村（田村）純子 (西高二九年)
倉光弘己 (西高二九年)
倉光（宮崎）容子 (西高二九年)
石黒 進 (西高二〇年)
竹田範男 (西高二二年)
新田 修 (西高二三年)
石本（湖山）瑛子 (西高二四年)
植田泰至 (西高二四年)
岡崎正義 (西高二四年)
佐々木（波当根）則子 (西高三四年)



- 曾根（小西）國義 (西高三四年)
高本雄啓 (西高三四年)
藤原 功 (西高三四年)
森下健男 (西高三四年)
寺谷英一郎 (西高四一年)
湯口逸夫 (西高四一年)
安宅寿昭 (西高四三年)
山本幸生 (西高四四年)
岩本（荒井）直子 (西高四六年)
竹内（谷口）智子 (西高四六年)

昨年は高野名誉会長をはじめ、多くの会員が亡くなられました。このような年は初めての事です。コロナ禍とはいえ、悲しい事が多い年でした。米澤前会長には高野名誉会長を偲んで思い出を執筆して頂きました。

事務局連絡先

〒631-0803

奈良市山陵町236-11
サンプラザ208

村江信幸 宛

